

# History

キラリを再発見

## 新野地区の基となった集落跡

新野川北・南遺跡は昭和45(1970)年に新野川の改修工事中に遺物が出土したことから、埋蔵文化財包蔵地として登録されました。

出土遺物としては、古墳時代から鎌倉時代までの土師器や須恵器、陶器が出土しています。

古墳時代後期(6世紀頃)の遺物としては、土師器の甕、高坏や須恵器の蓋坏の蓋、横瓶、平瓶の破片が出土しています。写真の高坏は脚が高いことから須恵器の影響と考えられます。

奈良時代(8世紀)の遺物としては土師器の甕や須恵器のつまみ蓋、広台坏身、高坏などが出土しています。

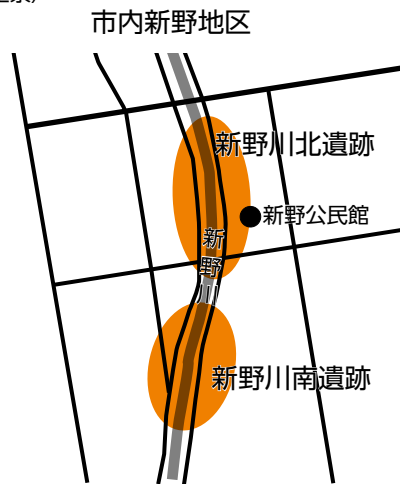
また平安時代(9世紀頃)の灰釉陶器や鎌倉時代(12世紀後半~13世紀)の山茶碗も出土しています。新野川周辺の沖積低地に立地しており、かなり広範囲にわたる遺跡である事から新野地区の基となる6世紀以降の古代から中世の集落と推定されます。



▲新野川北・南遺跡の現状(全景)



▲古墳時代後期の土師器「高坏」の脚部



埋蔵文化財包蔵地

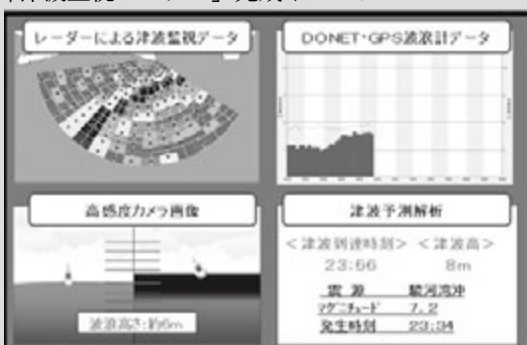
## 新野川北・南遺跡

照会 社会教育課 ☎0548③1129

中電が自社の津波監視システムに機構の観測データを加えて精度を高めようとするもので、東南海地震の想定震源域で集めた地震動や海面の高さなどのデータの提供を受けます。DONETは紀伊半島沖合約125kmまで海底ケーブルを敷設、南海トラフ付近の水深1900、4300mの海底に20カ所の観測点があり、津波を検知する水圧計や地震計で観測ユニットを構成し、検知したデータは地上

浜岡原子力発電所内の原子力安全技術研究所で津波監視システムの研究開発に取り組み中部電力は10月10日、三重県尾鷲市沖で「地震・津波観測監視システム(DONET)」を設置している独立行政法人海洋研究開発機構(神奈川県横須賀市)と、尾鷲市の三者でDONETの情報を活用する協定を締結したと発表しました。

「津波監視システム」完成イメージ



基地局に送られます。中電によると、基地局から浜岡原発内までデータを伝送するシステムの構築を本年度中に終えたいとしています。最終的には、予測データを蓄積し、津波到達時刻や高さなどの高精度な分析を誇るシステムの2018年運用を目指しています。

# Atomic

暮らしと原子力

津波検知を迅速に、そして正確に